

シリーズ 社会福祉法人の力を地域に

～社会福祉法人の地域における公益的な取組を紹介～

社会福祉法が改正され、すべての社会福祉法人は、「地域における公益的な取組」を行うことが責務として規定されました。社会福祉法人の公益性・非営利性など、その本旨に従い、他の事業主体では困難な福祉ニーズへの対応が求められています。

「園児と高齢者のオンライン交流～距離を超えてつながる思い～」

社会福祉法人 紫志の会

取り組みの概要

社会福祉法人紫志の会が運営する「幼保連携型認定こども園エンジェル保育園」では、以前より、園児と高齢者との交流を行っていました。コロナ禍では、お互いの安全を優先せざるを得ず、直接の交流は叶いません。しかし、コロナが落ち着くのを待っているだけでは、どんどん高齢者の元気がなくなっていく。機器を通してであっても、きっと園児のエネルギーを高齢者に届けることができるはず。そんな思いからオンライン交流を試行的にスタートしました。



オンライン交流の様子 園児の踊りにあわせて高齢者の方もリズムをとります

オンラインでも伝わるお互いを思う気持ち

今回のオンライン交流を行うにあたり、園児や担当の保育教諭は、自分たちが得意なことを一方的に披露するのではなく、「どうしたら、高齢者の皆さんが喜ぶだろう」と演目や内容等を知恵をしぼって考えました。当日は、一緒にクイズをし、ダンスを踊り、プレゼント交換もしました。高齢者の皆さんからは「たくさん練習してくれたのね、涙がこぼれそうなくらいうれしかったよ。」と声をかけてもらえました。園児からも「歌を一緒に歌えてうれしかった。私が大好きなキャラクターのプレゼントありがとう。」と喜びの感想を伝え合いました。最後の別れを惜しむ様子から、お互いを思う強さが感じられました。



交流後、スクリーンに映し出された高齢者に「元気でいてね～」と手をふる園児

これからの取り組みについて

交流事業は、元々は、子どもたちの豊かな心の育みのために始めましたが、結果的に、高齢者の皆さんへの元気のお渡しや、携わる保育教諭の学び・成長の機会にもなっていると感じています。

他にも公益的な取組として、地域住民と一緒に避難訓練を行っています。万が一の災害時、園児を安全に避難させるには、地域の皆さんの力が大変大きいです。一方で、有事のときには、地域の皆さんに園を利用いただければとの思いから、備蓄品も子ども用だけでなく、大人用のトイレや非常食も準備しています。地域に根付いた、地域に愛される園であることを常に意識しています。

コロナ等を理由に公益的な取組を実施しないことは簡単ではありますが、失敗を恐れず、思い切ってまずは一步を踏み出してみることを自法人では心がけています。



山崎園長

【問い合わせ】(社福) 紫志の会 幼保連携型認定こども園エンジェル保育園 TEL076-248-2888

地域における公益的な取組をシリーズで発信していきます。情報をお寄せください。